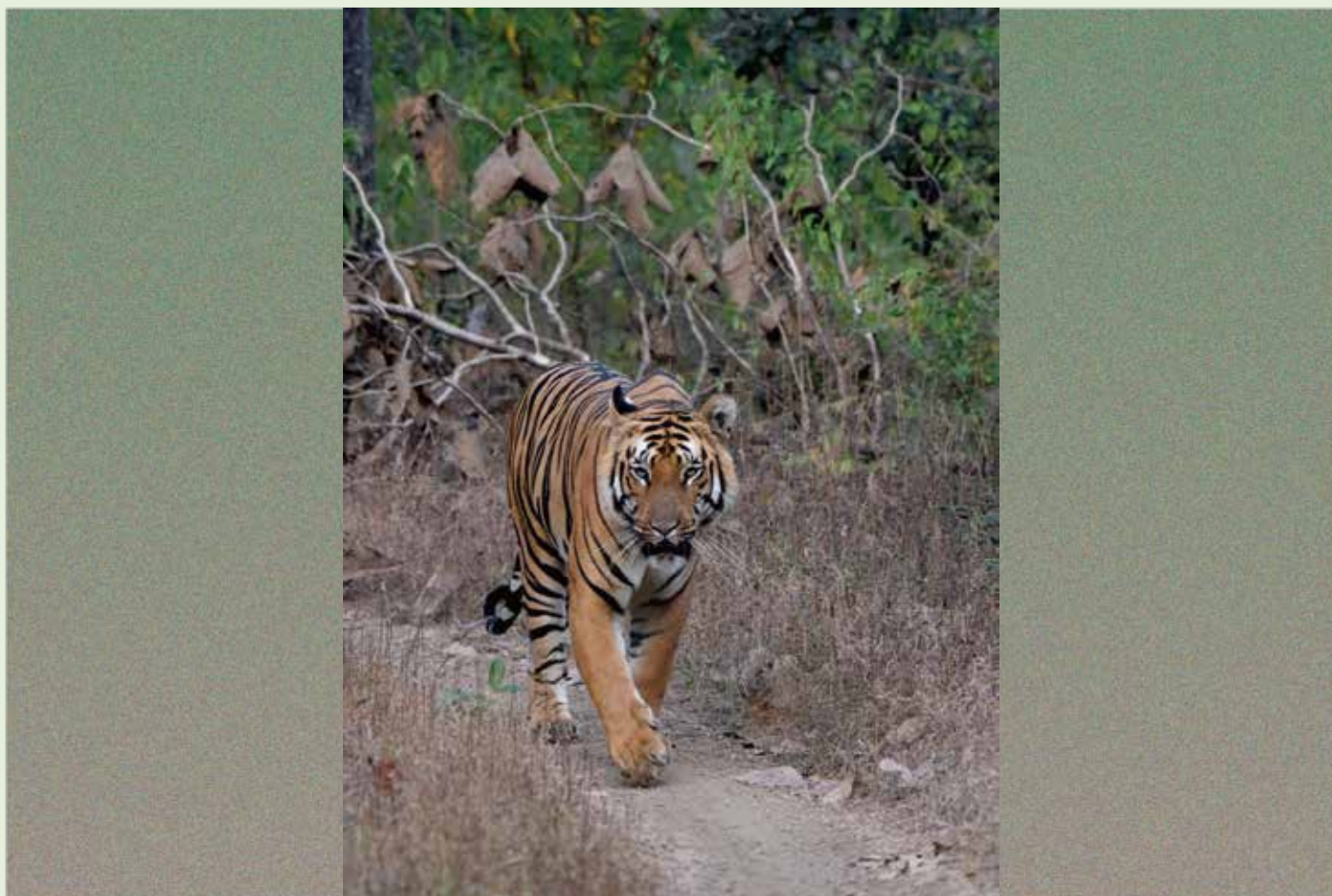




昨年、インドのモディ首相は2014年2,226頭だったインドのベンガルトラが2018年には33%も増加して2,967頭になったと発表しました。これは世界のトラ個体数の75%をインドが占めているということで、2010年のタイガーサミットで目標値とした「各国のトラを2022年の寅年までに倍増させる約束」をインドは4年以内に達成したことになると伝えています（2008年にインド政府が発表した推定生息数は1,411頭）。JTEFの活動地のあるマハラシュトラ州もまた2014年の190頭から312頭に増加したそうです。これはビッグニュースとして世界に流れましたが、JTEFはこれを手放しで喜べないのです。インド以外の国々ではトラの生息数が減少していますし、インド個体数増加には、人間とトラとの軋轢による事故がより増えそうな場所での増加が含まれているからです。

トラのような単独行動をとる肉食獣は1頭1頭が縄張りをもつため、安全に生き延びるためには獲物が十分いる広い生息地が必要です。しかし、人口密度が非常に高いインドでは、トラが生息する森は既にかなり縮小し、その内外に

は多くの村があります。そのため、急速に増えたトラを養える森も獲物動物も十分ではありません。その結果、保護区境界の外で村の家畜を襲うトラも多くなり、村人とのトラブルが増えることになります。JTEFの現在の活動地でも、トラブル予防と村人の長期的なトラとの共存への意欲を高めることが目標となっています。

今後、軋轢防止活動がどの地域でも最重要課題の1つとなることは明かです。JTEFの以前の支援地では保護区周辺の森を保護区に組み入れ拡大することができ、トラや森を守りつつ豊かで安心な暮らしをするための保護区周辺の村人たちの取組みを軌道に乗せることができました。これをモデルケースとして、新しい活動場所でも、結果を出していきたいと思っています。

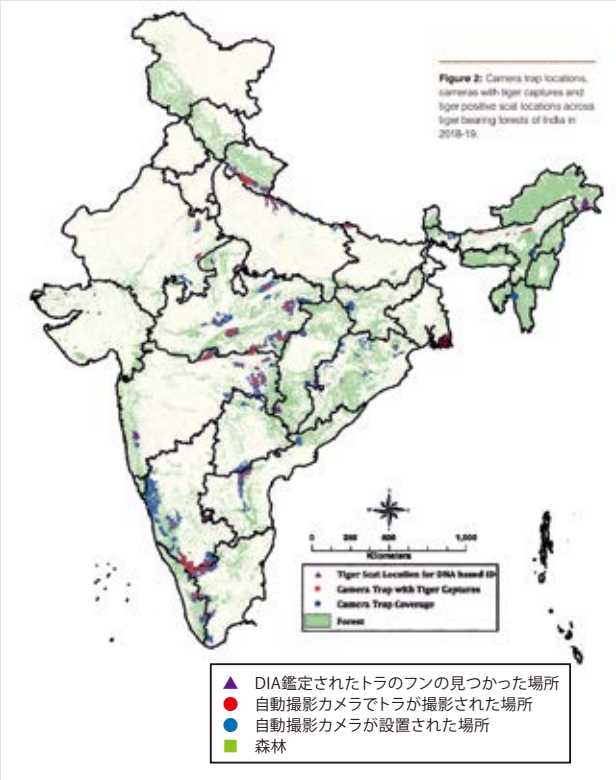
目次	巻頭言 … 1
	トラの保全をめぐる動き2018 … 2
	2018年度 事業の概要と収支報告 … 3
	2018年度 事業報告（生息地支援）… 4・5
	2018年度 事業報告（普及啓発イベント）… 6
	2019年 事業計画と予算 … 7
	事務局日誌 / イベント・カレンダー … 8

インドにおけるトラの増加を裏付ける インド政府の調査について

インド政府が2019年に発表したSTATUS OF TIGERS IN INDIA-2018の概略をまとめました。

この調査・分析は、2018年と2019年に行われたものです。

調査は、インドのトラが生息している20州の381,400km²の森林生息地を対象とし、自動撮影カメラはサンプリングされた総面積121,337km²の範囲内の26,838か所に配置されました。調査に費やされた延べ労働日数は593,882日で、これまでの野生生物調査の中で世界最大の投資が行われたものと主張されています。その結果撮影された写真は34,858,623枚、うち76,651枚がトラに関するもの、51,777枚がヒョウのものでした。撮影されたトラの数は合計2,461頭(1歳以上)でした。この自動撮影結果を中心に様々なフィールドで得られたデータをもとにシミュレーション・モデルを使って推定した総個体数が、2,967(2,603から3,346)です。また、インドでは、トラは年に6%の割合で増加していることも推定されています。



今回の調査は、新しい技術や分析ツールを使って実施されています。フィールドで得られるデータは、携帯電話アプリケーションを介してデジタルで記録されました。また、自動撮影カメラによる撮影、撮影された膨大

な写真の分析、撮影されたトラの縞模様による個体識別なども、人工知能(AI)の使用などにより、人為的な間違いを減らす革新的な工夫がなされています。

State	Tiger Population			
	2006	2010	2014	2018
Shivalik Hills and Garo-Khasi Jaintia Plateau				
Bihar	10 (7-13)	8	26(25-31)	31 (26 - 37)
Uttarakhand	178 (165-195)	227 (199-256)	340 (298-381)	402 (360 - 481)
Uttar Pradesh	108 (91-125)	118 (113-124)	112 (103-121)	173 (148 - 198)
Shivalik Garo-Khasi Jaintia	297 (239-355)	353(329-385)	489 (427-542)	646 (567 - 728)
Central Indian Landscape and Eastern Ghats				
Andhra Pradesh	35 (34-107)	72 (55-78)	68 (58-78)	48 (40 - 56) #
Chhattisgarh	28 (23-28)	26 (24-27)	46 (38-53)*	19 (18 - 21)
Jharkhand	19 (8-14)	3*	3*	5
Madhya Pradesh	300 (236-384)	257 (213-301)	308 (254-352)*	520 (441 - 621)
Maharashtra	153 (76-131)	168 (155-183)	186 (163-212)*	312 (270 - 354)
Odisha	45 (37-53)	32 (28-44)	28 (24-32)*	28 (25 - 36)
Rajasthan	32 (30-35)	36 (25-37)	45 (39-51)	63 (62 - 70)
Central India & Eastern Ghats	881 (488-718)	881 (818-883)	888 (806-788)	1,833 (1665 - 1,183)
Western Ghats Landscape				
Goa	-	-	5*	3
Karnataka	290 (241-338)	300 (299-305)	406 (368-452)	524 (475 - 578)
Kerala	45 (39-53)	71 (67-75)	136 (119-155)	190 (166 - 215)
Tamil Nadu	18 (16-95)	183 (153-173)	229 (201-255)	264 (227 - 302)
Western Ghats	402 (338-487)	524 (524-548)	776 (695-881)	981 (871 - 1,083)
North East Hills and Brahmaputra Plateau Landscape				
Assam	14 (12-18)	-	20*	20*
Arunachal Pradesh	20 (10-80)	143 (113-172)	157 (135-184)	190 (165 - 215)
Mizoram	4 (4-8)	3	3*	6
Nagaland	-	-	-	6
Northern	15 (9-12)	-	2*	6
West Bengal	-	-	-	-
North East Hills, and Brahmaputra	188 (164-118)	148 (113-178)	201 (174-212)	218 (194 - 244)
Sundarbans				
	11 (12-14)	16 (12-16)	16 (12-16)	16 (12-16)
TOTAL	1,671 (1,185-1,857)	1,706 (1,807-1,888)	1,828 (1,849-2,081)	2,967 (2,603 - 3,346)

* Estimated through Spot Check
For comparison with previous estimate of Andhra Pradesh, combine Andhra Pradesh and Telangana population estimate of current year

Tigers were not recorded in Buxa, Dampa and Palamau tiger reserves. Reserves had poor tiger status in earlier assessments as well.

トラの個体数の変化を州ごとにみると、中央部のマディヤ・プラデシュ州と南部のカルナータカ州では500頭以上の生息が確認されました。北部ヒマラヤ山麓のウッタルカンド州が400頭台と、これに続きます。2014年から2018年にかけての増加率では、JTEFがWTIとプロジェクトを行っているマハラシュトラ州が190頭から312頭(64%増)と目覚ましい増加を遂げています。その一方、ともに中央部のチャティスガル州とオディシャ州は個体数が少ないうえに継続的な低下がありトラの存続に懸念があります。また、ブクサ、ダンパ、パラマウの3トラ保護区ではトラが確認できませんでした。これらの州で明暗が分かれた理由について、インド政府は、地域の法律と秩序の状況も関連しており、保護地域外のトラの生息地が村の人たちによって広く使用されているので、地域コミュニティの生計を確保したうえでトラとの共存モデルを早急に確立することが必要だと指摘しています。



[事業の概要]

▶ 生息地支援

[中央インド・トラ保全プロジェクト]

人件費を除く支援額その他経費：1,657,500円（予算額：1,650,000円）

現地パートナー：インド野生生物トラスト（WTI）

【目的】

ヴィダルバ地域（マハラシュトラ州）内のトラの生息地確保・密猟防止

【概要】

ティペシュワール野生生物保護区において、以下の活動を行う。

- ・住民参加のトラとの軋轢対応チームの組織化とその活動に対する支援
- ・森林局の最前線森林スタッフに対する支援
- ・地域住民が自然ガイドとして活動するためのトレーニング
- ・生息地の開発規制に関する提言

※活動の一部は、公益信託地球環境日本基金から助成を得て実施しました。

▶ 保全教育・普及・・・6、8頁参照

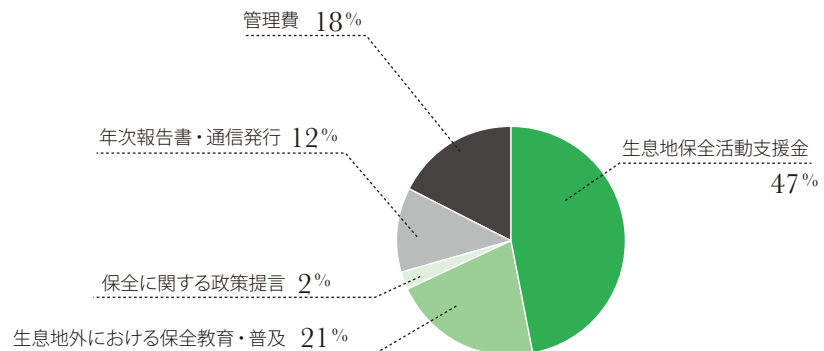
▶ チャリティー・イベントの開催・・・6、8頁参照

▶ 会報発行・・・年次報告書（2019年2月）、保護基金通信（2019年6月、10月）、 各種SNS発信（Facebook、Twitter、Instagram）、ウェブサイト運営

[決算報告]

※トラ保護基金 JTEF2018年度決算（2018年11月1日～2019年10月31日）

収益		費用	
	単位：円		単位：円
正会員年会費	0	生息地保全活動支援金	1,657,500
寄附金	2,219,770	生息地外における保全教育・普及	749,102
助成金（地球環境日本基金、他）	1,005,950	保全に関する政策提言	84,830
受取利息・為替差益	0	チャリティー・イベントの開催	0
合 計	3,225,720	年次報告書・通信発行	417,955
		管理費（人件費・家賃・水道光熱費・消耗品費、他）	616,311
		合 計	3,525,698



※共通の収益および費用は、トラ、ゾウ、イリオモテヤマネコ、それぞれの収支状況を考慮して適正に配分しています。



トラと共存するくらし向上プロジェクト

ティベシュワール野生生物保護区
(中央インド・マハラシュトラ州)

ティベシュワール野生生物保護区は東京都23区の4分の1にも満たない小さい保護区(148.6km²)ですが、様々な植物相が、30種の哺乳類、渡り鳥を含む160種の鳥類、26種の爬虫類、4種の両生類、多種に及ぶ魚類、無数の昆虫を支えています。しかし、JTEFが活動を開始した2017年から1年あまりで家畜44頭と7人がトラの犠牲になります。その後、殺された7名から検出されたトラのDNAから、うち5名は同一のトラに襲われたと判明、住民たちのトラへの怒りは最高潮に達しました。そして、犯人と目さ



れた、子連れのメストラが捕獲され、殺されてしまいます。JTEF-WTIチームは、人とトラの間の悲惨なトラブルの連鎖を断ち切るべく、対処療法に終始していた森林局と村の住民との間に信頼関係が築かれ、トラブル解消のために協働して建設的なアクションを起こす体制がとられるよう、それぞれに働きかけています。

緊急ワークショップ その1

上記で述べたように住民の怒りを抑えるため森林局はあわててハンターを雇い、そのメストラを殺したのですが、その後すぐにこの雇った手順が法に則っていなかったこと、そのハンターが銃刀法違反、薬物所持違反もあったことがわかり、森林局への村人の不信感はさらに高まり、多くのメディアも注目しました。

現地パートナーのWTIは、森林局には法令を遵守し慎重に対応するよう求める一方で、森林局によるずさんな対応を確実に防止するべく、メストラ駆除の合法性について最高裁判所の判断を求めました。また、村人向けにワークショップで、トラと共存して生きていくために建設的で具体的な行動を起こす必要性や、具体策として村人によるパトロール隊の結成を奨励、その実施の仕方を伝えました。



緊急に開催されたワークショップ



殺されたメストラ



森林局がきちんと機能していたら、村人がトラとの共存を理解していたら、死亡者があれほどの数にはならなかったでしょうし、メストラを殺すことも無かったかもしれません。母トラと共にいたメスの子トラが捕獲され、殺されずにベンチ国立公園に移されモニタリングされていることが、せめてもの救いです。

緊急ワークショップ その2

2019年5月、ティペシュワール野生生物保護区から20 km離れたラムナガル村周辺でゆったりと座っている亜成獣のトラが度々目撃され、村人たちから森林官とWTIチームに連絡がはいり、すぐに駆け付けましたが、到着するまでに人々はトラに石を投げつけ、その反撃としてトラも1人の村人に襲いかかりました。怪我をした村人は直ちに近くの病院で手当を受けました。幸い、傷は表皮だけだったので大事には至りませんでした。森林官とWTIチームはトラブルのあったその場所に集まっていた人々を落ち着かせ、これ以上の犠牲者は出さないと保証しました。その後、追跡調査としてこのトラの動きを観察、確認し、この村に近い12の村で、警察官、村長など村の役員、牛飼い、若者たちにワークショップを開き、「トラが近くにいるとき、トラブル防止のためにやるべきこと、やってはいけないこと」などを確認しました。900人が参加し、周辺にトラがいる間、学んだ予防対策を取り続けました。やがて、トラは静かにこの地域から離れ、住民たちは安全に移動できるようになりました。



緑色の点がティペシュワール野生生物保護区

野生生物保護区での山火事 消火

2019年は山火事が例年になく数多く発生しました。この地域では村人たちが木の葉でタバコを作るのでしばしば森に入り、葉を集めるために林床に火をかけることで森林火災がよく発生します。しかし、一部では動物を密猟するために故意に火災を引き起こすことがわかってきました。その際、JTEF-WTIのワークショップで訓練された20人の自然ガイドが消火で活躍。森林局は、住民自然ガイドの熱心な活動を称賛しました。



高圧電によるトラの感電死への対策

最近、440 ボルトの高圧電線が、瞬時に動物を感電死させる手段として利用される例が増えています。作物をイノシシなどから守るため畑の周りを電線で囲うのですが、ナマケグマ、トラなども偶然に犠牲となっています。さらに、密猟者がこの高圧電線を密猟目的に好んで使うところまできています。

そこで、JTEF-WTIは森林局と、スタッフに向けて野外ワークショップを開催し、マハラシュトラ州電力配電会社(MSEDCL)も参加しました。ティペシュワール野生生物保護区以外の場所でも開催し、合計107名の最前線で働く森林警備員、担当官、日常的に森に入る労働者、および電機部門の現場スタッフ等が参加しました。このワークショップは森林局からも電力委員会からも、現場で共同パトロールや監視を行う関係機関で合意形成を行うのに役立ったと、高く評価されました。



サポーターの皆さん、その他 多くの方たちに参加いただいたイベント



2019年2月9日&11日
かなざわバレンタイン フェアトレード de
チョコまつり! に参加 @金沢動物園



「野生の」数10種の盛衰の歴史の果てに、アジアゾウとアフリカゾウの2種が今生存している背景、それにもかかわらず、それらが危機に陥っている原因、私たちに出来ることをお話ししました。100組近い方たちに話を聞いて頂き、活動支援の募金にご協力いただきました!

2019年2月9日
竹富町やまねこマラソン大会
に出場&ブース出展 @西表島



スタッフ一同と、ヤマネコ保護に賛同してくださる皆さんの「チーム山猫パトロール」で走り、安全運転を訴えました。

2019年3月30日&31日
KEEN FEST Tokyoに参加
@代々木公園



やまねこパトロールを支援するフットウェアメーカー: KEEN のフェスでJTEF賛同者の坂本美雨さんが、イリオモテヤマネコ保護への支援を訴えました。

2019年5月3日&4日
金沢動物園インド祭りにブース出展
@金沢動物園



インドでのアジアゾウが移動するためのコリドーを守る活動、日本の象牙市場閉鎖のための活動などを紹介。ゾウのクイズも楽しんでもらいました。

2019年5月19日
東京西表島郷友会総会に
ブース出展 @川崎市総合自治会館



昨年のヤマネコ交通事故は9件と聞いて、「人だったら東京で100万人事故があったのと同じでしょう?」とおっしゃる方も。

2019年4月14日&15日
「イリオモテヤマネコの日」記念
シンポジウム @西表島大原&上原



これまで行われてきた様々な交通事故対策を振り返り、これからのイリオモテヤマネコ保護にもとめられることを地域の皆さんと一緒に考えました。

2019年7月28日
世界トラの日に、
野生のトラについて解説 @上野動物園



動物園ボランティアさんたちとともにブースを特設し、トラの前では野生のトラ保護についても解説しました。

2019年7月6日
JTEFチャリティーパーティー2019
@ピヤステーション恵比寿



アンジェラ/ラーガさんのインドダンスを堪能したあとは、皆と一緒にダンスを楽しみました。

2019年8月12日
世界ゾウの日に
上野動物園とトークショー @上野動物園



5日後に始まるワシントン条約会議に先立ち、日本が国内象牙市場を閉鎖しなければならないことを訴えました。また、あまり知られていない野生のアジアゾウの現状と危機についても解説。

2019年10月26日&27日
ディワリ・イン・ヨコハマ2019に
ブース出展 @山下公園



インドで行っているトラとゾウの保護プロジェクトを紹介。ヨガや料理のほかにもトラやゾウがいる野生のすばらしい自然も紹介しました。



中央インド、ティペシュワール野生生物保護区で以下の活動を行います。

● 昨年に引き続き、ティペシュワール野生生物保護区およびその周辺でのトラなどとのトラブル軽減のため、即時に対応できる体制強化と状況の監視の向上を目指します。

● 昨年に引き続き、保護区周辺の村で、各村長や関係機関を集め、きめ細やかな軋轢防止ワークショップを行い、村長たちからそれぞれの地域に広げてもらいます。

● 過去2年間にトラなどとのトラブルが起きた村で、若者たちの軋轢防止対策チームを組織し、トラの動きを監視し、森林局へ連絡をするメッセージャーになってもらうためのワークショップを、ヤバトマル地域の全大学で開催します。

● 昨年に引き続き、森林官に法律と取締りのワークショップを開きます。

トラ保護基金 JTEF2019年度予算 (2019年11月1日～2020年10月31日)

予算：収益

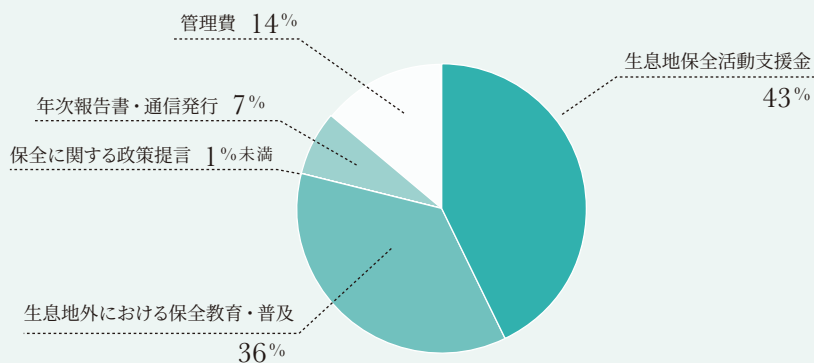
単位：円

正会員年会費	0
寄附金	2,961,200
助成金	1,000,000
補助金	0
合計	3,961,200

予算：費用

単位：円

生息地保全活動支援金	1,700,000
生息地外における保全教育・普及	1,429,500
保全に関する政策提言	4,200
チャリティー・イベントの開催	0
年次報告書・通信発行	287,700
管理費（人件費・家賃・水道光熱費・消耗品費、他）	539,800
合計	3,961,200



※共通の収益および費用は、トラ、ゾウ、イリオモテヤマネコ、それぞれの予算を考慮して適正に配分しています。

November 2018

- 11.2 緑の地球防衛基金 助成金贈呈式
11.14 保全教育研究会

January 2019

- 1.19 理事会・総会・交流会

February

- 2.2 竹富町立上原小学校学習発表会
2.9 やまねこマラソン参加・ブース展示
2.11 金沢動物園 イベント参加

March

- 3.1 保全教育研究会
3.23 白梅 桜祭り ブース展示
3.30,31 KEENFest ブース展示

April

- 4.14 イリオモテヤマネコの日記念シンポ (大原)
4.15 イリオモテヤマネコの日記念シンポ (上原)

- 4.17 保全教育研究会
4.20,21 アースデイ東京 ブース展示
4.28 八重山祭り

May

- 5.3 金沢動物園 インドフェスタ ブース展示
5.19 西表島郷友会 ブース展示

June

- 6.22 伊良皆幸吉 三線の会 ブース展示
6.25 理事会

July

- 7.6 JTEF チャリティーパーティー
7.25 西表島教員研修会 (大原)
7.26 西表島教員研修会 (上原)
7.28 世界トラの日 (東京・上野動物園) ブース展示

August

- 8.8 WILDAID 記者会見 (坂元登壇) (東京・日本外国特派員協会)
令和元年度 第一回「世界自然遺産候補地地域連絡会議 西表島部会」
8.12 世界ゾウの日 (東京・上野動物園) トークショー
8.17~28 ワシントン条約締約国会議参加 (ジュネーブ)

September

- 9.18 保全教育研究会
9.28~29 ナマステインディア (東京・代々木公園)

October

- 10.3 西表島エコツーリズム推進協議会 参加
10.12 IUCN 西表島調査における住民との意見交換会 参加
10.25 EIA 記者会見 (東京・JTEF 事務所)
10.26,27 ディワリイン横浜 ブース展示
10.28 理事会

Media

- ・11月3日_琉球新報:「自然遺産推薦結果地元『振興のきっかけに』持続可能へ対策急ぐ声も」★やまねこパトロールの高山雄介事務局長は「正直、早いのではない。西表島で登録後の課題となる持続可能な観光に向けた取組は、着手はされているが具体化はされていないのが現状だ」「モニタリングを通じた適正な観客数等の把握や、法的拘束力のあるルール策定などを急ぐ必要がある」
- ・12月4日_八重山毎日新聞:「イリオモテヤマネコの輪禍防止 事故対策条例制定へ」★認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金西表島支部やまねこパトロールの高山雄介事務局長は、観光客がヤマネコの生息域にむやみに入ったり、発見した個体に近づいたりしないよう、「観察方法のルール」づくりの必要性を訴える。地域住民が生活の中でヤマネコと遭遇する機会はあるとはいえないが、入山を伴う自然観察ツアーなどで観光客が出くわすケースがあるからだ。このため高山事務局長は「発見時の対応や観察の方法をルールで定めてもらいたい」と話す。山の中でヤマネコに餌付けがされているというのわきもあることから、「ヤマネコに餌付けをすることで人間や道路、車を恐れなくなること考えられる」と不安視。実際、特定の個体が何度も路上で目撃されており、「ヤマネコを取り巻く環境は確実に変化している」と警鐘を鳴らす。
- ・1月8日_Hakai Magazine Coastal science and societies:「島に棲む希少なヤマネコにとっての危険な名声」★世界遺産登録が迫る西表島が英語のウェブマガジンに、70年代の「人かヤマネコか」論争で、住民こそ守り手、住民を大切に訴え、人とヤマネコは共存可との信念を貫く津嘉山彦さん(やまねこ西部相談役)。ヤマネコと島の暮らしの将来への懸念を語る。



illustration by Mark Garrison

- ・2月6日_毎日新聞:「日本の象牙取引禁止を アフリカ諸国提案」★トラ・ゾウ保護基金の坂元事務局長「日本市場は今も基本的にオープンで、違法取引の抜け穴が目立つ。現状では締約国会議で理解を得るのは難しいのではないか」と指摘。
- ・4月16日_毎日新聞:「輸出前提で『象牙』販売 国内70印店店 違法性認識も」★国内の印章店のうち、少なくとも70店で輸出を前提とした販売に応じていたことが、EIAとトラ・ゾウ保護基金の調査でわかった。輸出の違法性を認識しながら、販売しようとしていた実態が浮かんた。
- ・4月16日_八重山毎日新聞:「イリオモテヤマネコの日 町条例でルール構築へ」★やまねこパトロール事務局長の高山雄介氏は、フェンスの維持管理体制、ドライバーの法定速度を順守について意見した。竹富町政策推進課の仲盛敦課長補佐は、町が制定を目指す「イリオモテヤマネコ交通事故対策条例(仮称)」でのルール作りを紹介し、ヤマネコの慣れを助長する恐れのある行為の規制▽自動車の運行を伴う事業の適正化▽関係機関で連携した交通事故防止対策—などを盛り込む計画。今後、規制する行

JTEF やそのパートナーの活動 / コメントが掲載されました

為の科学的な根拠、どこからが違反行為なのかを明確化させ、住民・事業者・観光客にとって受け入れ可能か検証を進める方針。

- ・4月29日_北日本新聞:「年間3万頭が犠牲、象牙市場に閉鎖圧力、ネット・店頭で広く販売」★JTEFは、空港隣接のモールで、海外に持ち出すといっている顧客に象牙印を売ろうとした大手業者の発言を録音したデータを公開。「大手小売業者のこの状況は、政府が国内象牙市場を管理できていないことを象徴する出来事だ」と指摘した。

- ・5月19日_八重山毎日新聞:「浦内橋 生態系への影響懸念 やまねこパトロール架け替え工事で提言」★西表島唯一の県道は、浦内川を橋で越える。この浦内橋が新築時期に、住民生活上不可欠な工事である反面、10年の工期に大型工事車両が多数走行。主要ルートには、アンダーパスなど事故防止施設も無くヤマネコの事故多発、住民生活への影響も大。しかし、沖縄県は車の走行密度の予測評価すらしていなかった。

- ・6月12日_毎日新聞「象牙取引続く 日本の課題は」:★国際社会「合法」認め 坂元雅行事務局長 NPO法人「トラ・ゾウ保護基金」

- ・6月20日_八重山毎日新聞:「先日、西表島上原地区で交通事故に遭い…」★JTEF 西表島支部やまねこパトロールが同島で実施した車両の速度調査で自家用車の75%、ツアー・送迎車の60%が制限速度オーバーとの結果が出ている。

- ・8月10日_東京新聞:「象牙登録、厳格化前に急増 国際非難集中の恐れも」★NPO法人トラ・ゾウ保護基金の坂元雅行事務局長は「厳格化前の登録で、密輸や違法取引された象牙が国のお墨付きで大量に流通する恐れが高い。市場閉鎖以外に根本的な解決策はない」と話す。

- ・8月22日_朝日新聞:「象牙取引、日本に厳しい視線 迫られる市場の完全閉鎖」★トラ・ゾウ保護基金は、修正案について「国内市場閉鎖に向けて一歩前進した」とみる。「今回の会議で市場の完全閉鎖への鍵になるのは日本だ」という世界各國の認識ができた」と話した。

- ・9月27日_朝日小学生新聞:「カワウソやキリンの保護強化 希少生物の取引を規制するワシントン条約会議」★Q「絶滅危惧種を守ることに、なぜ賛成と反対が分かれるのですか」トラゾウ「絶滅危惧種をつかまねければならない、という点では、多くの人が一致しています。でも将来の生存が危ない証拠がはっきりしない場合、それならとって、取引してもいい」という意見と、「絶滅したら取り返しがつかないのだから、やめておくべき」という意見が対立します。Q「なぜでしょうか」トラゾウ「生物を利用した商売と、慎重な保護のどちらを重視するかで、意見が分かれるので日本ではカワウソが絶滅し、アフリカでゾウが減少し続けているように、生物は大きく減ってしまうと、回復は簡単ではないことを子供たちに知ってほしいです。」

- ・10月16日_毎日新聞:「アニマルクライシス: 脅かされる奄美・沖縄の固有種」★NPO法人「トラ・ゾウ保護基金」西表島支部やまねこパトロールの高山雄介事務局長は「世界遺産に登録されれば、観光客が増え餌付けなども心配だ。固有種を巡る状況が悪化する前に、条例などで保護ルールを定める時期に来ているのではないか」と指摘する。

イベントカレンダー

2020

「KEENFEST in SPRING LOVE 春風2020」

会場: 東京・代々木公園野外ステージ周辺
(SPRING LOVE 春風2020内)

日程: 3月28日(土) 11:00 ~ 20:00
29日(日) 10:00 ~ 20:00 ※雨天決行

JTEF
ブース
出展金沢動物園
春まつり

会場: 横浜市立金沢動物園

日程: 3月20~22日

開園時間/9:30 ~ 16:30
(入園 16時迄)

JTEF
ブース
出展
2020年アースデイ東京
2020

会場: 代々木公園

イベント広場・ケヤキ並木

4月18日(土) 10~19時
19日(日) 10~18時半

JTEF
ブース
出展イリオモテヤマネコの日
記念シンポジウム

日程: 4月15日(水)
場所: 未定(西表島)

JTEFを支える
チャリティーパーティー

日程: 6月6日(土)
場所: 「新橋亭」
(東京・新橋)

JTEFの活動をご支援ください!

JTEFの活動は、皆さまからのご寄附で支えられています。野生動物と私たちの豊かな自然環境を守るために、ぜひ私たちの活動をご支援ください。

★年間サポーター費・随時寄附のお支払方法★
JTEFのウェブサイトからクレジットカードで簡単にご寄附いただけます。www.jtef.jp または「トラゾウ」で検索

郵便振替でもご寄附いただけます。
ゆうちょ銀行: 口座番号) 00170-7-355897 加入者名) トラ・ゾウ保護基金

トラ・ゾウ保護基金へのご寄附は、
確定申告で納められた所得税の控除(還付)を申告できます

2019年1月1日以降2019年12月31日の間にいただいた年間サポーター寄附と随時の寄附は、合計で2,000円を超えると令和元年度の所得税の控除申告ができます。ぜひご活用ください。
確定申告の受付は2020年(令和2年)3月16日(月)まで。お忘れなく!